

東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻太陽惑星空間系領域の学生の受け入れに対する御礼

東北大学太陽惑星空間系領域(C領域)スタッフ一同

岡野 章一¹・小野 高幸¹・笠羽 康正¹・三澤 浩昭¹・熊本 篤志¹・
坂野井 健¹・寺田 直樹¹・村田 功¹・土屋 史紀¹・佐藤 由佳¹・
加藤 雄人¹・中川 広務¹・黒田 剛史¹

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震から三ヶ月が過ぎました。東日本を突如襲った未曾有の大震災は、沿岸部を中心に広範囲で甚大な被害を及ぼし、多くの尊い命を奪いました。東北大学も少なくない人的・物的被害を受けましたが、幸いにも我々太陽惑星空間系領域(C領域)構成員には怪我はありませんでした。皆様のご支援・ご協力により、少しずつではありますが、我々も復興そして更なる発展に向かって歩みだしております。

この度の大震災では、東北地方の広範囲でライフラインが途絶し、生活物資の入手が困難となりました。また、我々の研究室が居を構える学舎が暫定の損傷調査が終わる4月1日まで立ち入り規制となり、東北大学での学生の研究活動の維持及びその指導・支援が困難になってしまいました。そのため、我々C領域では学生を全員実家に避難させることにしましたが、大学再開まで二ヶ月程度かかると予想されたことから、被災した学生にも研究活動の継続が可能で且つ良質な教育を受ける機会を与えたいと考え、学外の教育研究機関に被災学生の受け入れ及び教育研究支援をお願いすることとなりました。このような我々の勝手なお願いを快く引き受けてくださり、受け入れ先となってくれました北海道大学大学院理学院、東北工業大学工学部、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、国立極地研究所、情報通信研究機構、名古屋大学太陽地球環境研究所、豊田工業高等専門学校、京都大学大学院理学研究科、同附属地磁気世界資料解析センター、同附属

花山天文台、京都大学生存圏研究所、神戸大学惑星科学研究センター、九州大学宙空環境研究センター(順不同)の皆様には、心より御礼申し上げます。これらの機関におきましては、学生への研究指導のみならず、研究スペースの提供、PCの貸与、ゼミや講義への参加、図書館利用など、多岐にわたるご支援をいただきました。また、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、国立極地研究所、名古屋大学太陽地球環境研究所(順不同)におきましては、被災学生・研究者への旅費や滞在費もご支援賜りました。

東北大学の教育研究基盤も徐々に復旧・整備されつつあり、5月9日から講義を開始しております。それに伴い、学生も研究室に戻り、東北大学での研究活動を再開いたしました。研究室で再会した学生の一回り遅く成長した姿から、受け入れ機関で如何に充実した研究生活を送ってきたかが窺い知れます。受け入れ機関の皆様にはあらためて深く感謝申し上げます。今後もこれを機会に、より一層の学生・研究者の相互交流や共同研究を進めていければと思っております。

未だ多くの被災者の方が大変な状況での生活を余儀なくされております中、我々も教育・研究活動を通して地域再生及び学界のさらなる発展に貢献できるよう邁進してまいります。これからもなお一層の御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2011年6月20日



図1：惑星圏蔵王観測所のデカメータ電波アンテナ前にて(2011年6月18日撮影)